

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.6.28-7.4

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

32:1 民はモーセが山から降りて来るのに手間取っているのを見て、アロンのもとに集まり、彼に言った。「さあ、私たちに先立って行く神を、造ってください。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。」

32:2 それで、アロンは彼らに言った。「あなたがたの妻や、息子、娘たちの耳にある金の耳輪をはずして、私のところに持って来なさい。」

32:3 そこで、民はみな、その耳にある金の耳輪をはずして、アロンのところに持って来た。

32:4 彼がそれを、彼らの手から受け取り、のみで型を造り、鑄物の子牛にした。彼らは、「イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ。」と言った。32:5 アロンはこれを見て、その前に祭壇を築いた。そして、アロンは呼ばわって言った。「あすは主への祭りである。」

32:6 そこで、翌日、朝早く彼らは全焼のいけにえをささげ、和解のいけにえを供えた。そして、民はすわっては、飲み食いし、立っては、戯れた。

32:7 主はモーセに仰せられた。「さあ、すぐ降りて行け。あなたがエジプトの地から連れ上ったあなたの民は、墮落してしまったから。」

32:8 彼らは早くも、わたしが彼らに命じた道からはずれ、自分たちのために鑄物の子牛を造り、それを伏し拝み、それにいけにえをささげ、『イスラエルよ。これがあなたをエジプトの地から連れ上ったあなたの神だ。』と

言っている。」

32:9 主はまた、モーセに仰せられた。「わたしはこの民を見た。これは、実にうなじのこわい民だ。」

32:10 今はただ、わたしのするままにせよ。わたしの怒りが彼らに向かって燃え上がって、わたしが彼らを絶ち滅ぼすためだ。しかし、わたしはあなたを大いなる国民としよう。」

32:11 しかしモーセは、彼の神、主に嘆願して言った。「主よ。あなたが偉大な力と力強い御手をもって、エジプトの地から連れ出されたご自分の民に向かって、どうして、あなたは御怒りを燃やされるのですか。」

32:12 また、どうしてエジプト人が『神は彼らを山地で殺し、地の面から絶ち滅ぼすために、悪意をもって彼らを連れ出したのだ。』と言うようにされるのですか。どうか、あなたの燃える怒りをおさめ、あなたの民へのわざわざの思い直してください。

32:13 あなたのしもべアブラハム、イサク、イスラエルを覚えてください。あなたはご自身にかけて彼らに誓い、そうして、彼らに、『わたしはあなたがたの子孫を空の星のようにふやし、わたしが約束したこの地をすべて、あなたがたの子孫に与え、彼らは永久にこれを相続地とするようになる。』と仰せられたのです。」

32:14 すると、主はその民に下すと仰せられたわざわざの思い直された。

民は偶像礼拝をし、また快樂にふけりました。偶像とは人間の都合に合わせて作るものなので、そこには快樂や不道徳が付きものなのです。私たちは見える偶像を持つてはいないかもしれ

ませんが、見えない心の偶像はあるかもしれません。神様の代わりに別のものを、神の位置にしているのなら、それは偶像です。神のように頼ったり、神よりも優先させているものはないでしょうか。それに気づいて、偶像を取り除けて、本来の位置に神様を置くことが、きよめであり成長です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



32:15 モーセは向き直り、二枚のあかしの板を手にして山から降りた。板は両面から書いてあった。すなわち、表と裏に書いてあった。

32:16 板はそれ自体神の作であった。その字は神の字であって、その板に刻まれていた。

32:17 ヨシュアは民の叫ぶ大声を聞いて、モーセに言った。「宿営の中にかくさの音がします。」

32:18 するとモーセは言った。「それは勝利を叫ぶ声ではなく、敗北を嘆く声でもない。私の聞くのは、歌を歌う声である。」

32:19 宿営に近づいて、子牛と踊りを見るなり、モーセの怒りは燃え上がった。そして手からあの板を投げ捨て、それを山のふもとで砕いてしまった。

32:20 それから、彼らが造った子牛を取り、これを火で焼き、さらにそれを粉々に砕き、それを水の上まき散らし、イスラエル人に飲ませた。

32:21 モーセはアロンに言った。「この民はあなたに何をしたのですか。あなたが彼らにこんな大きな罪を犯させたのは。」

32:22 アロンは言った。「わが主よ。どうか怒りを燃やさないでください。あなた自身、民の悪いのを知っているでしょう。」

32:23 彼らは私に言いました。『私たちに先立って行く神を、造ってくれ。私たちをエジプトの地から連れ上ったあのモーセという者が、どうなったのか、私たちにはわからないから。』

32:24 それで、私は彼らに、『だれでも、金を持っている者は私のために、それを取りは

ずせ。』と言いました。彼らはそれを私に渡したので、私がこれを火に投げ入れたところ、この子牛が出て来たのです。」

32:25 モーセは、民が乱れており、アロンが彼らをほうっておいたので、敵の物笑いとなっているのを見た。

32:26 そこでモーセは宿営の入口に立って「だれでも、主につく者は、私のところに。」と言った。するとレビ族がみな、彼のところに集まった。

32:27 そこで、モーセは彼らに言った。「イスラエルの神、主はこう仰せられる。おのおのの腰に剣を帯び、宿営の中を入口から入口へ行き巡って、おのおのその兄弟、その友、その隣人を殺せ。」

32:28 レビ族は、モーセのことばどおりに行なった。その日、民のうち、おおよそ三千人が倒れた。

32:29 そこで、モーセは言った。「あなたがたは、おのおのその子、その兄弟に逆らっても、きょう、主に身をささげよ。主が、きょう、あなたがたに祝福をお与えになるために。」

アロンは言い訳をしました。自分が偶像礼拝に関わったことを民にせいにし、また偶然に像ができたかのように言ったのです。このように神様に背くとき、私たちは言い訳をしがちです。そのような必要がないように、神様にしっかりと従いましょう。

「三千人が倒れた」とあります。この偶像礼拝において特別に常軌を逸した人々であったでしょう。それを許してしまったら、その後のイスラエルに多きな混乱が起きたとの判断であったと思われます。私たちは十字架によって赦されていますが、心の中の罪はこのようにきよめられなければなりません。今後の人生に混乱をもたらさ

ないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 水曜

出エジプト



32:30 翌日になって、モーセは民に言った。「あなたがたは大きな罪を犯した。それで今、私は主のところへ行って行く。たぶんあなたがたの罪のために贖うことができるでしょう。」

32:31 そこでモーセは主のところへ戻って、申し上げた。「ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。」

32:32 今、もし、彼らの罪をお赦しくださいされるものなら……。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」

32:33 すると主はモーセに仰せられた。「わたしに罪を犯した者はだれであれ、わたしの書物から消し去ろう。」

32:34 しかし、今は行って、わたしがあなたに告げた場所に、民を導け。見よ。わたしの使いが、あなたの前に行く。わたしのさばきの日にわたしが彼らの罪をさばく。」

32:35 こうして、主は民を打たれた。アロンが造った子牛を彼らが礼拝したからである。

モーセは偶像礼拝の重大さを知っていました。民の罪がどれほど重いものであったをよく理解していたのです。しかし民をさばくことはしませんでした。むしろ彼らをとりなしたのです。モーセのこれまでの努力を無にするようなことであっても、自分のことよりも民を思いやる気持ちが強かったのです。

それは義務からではなく、人々への愛の思いからでした。「どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください。」とまで言ったのです。これはイエス様の愛のひながたでもあります。

そしてこのようなモーセだからこそ、その後の働きができたのです。神様の使命は愛によって全うできるということです。私たちも、状況や立場がどうであっても、愛を動機にして考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 1日 木曜

出エジプト

33:1 主はモーセに仰せられた。「あなたも、あなたがエジプトの地から連れ上った民も、わたしがアブラハム、イサク、ヤコブに誓って、『これをあなたの子孫に与える。』と言った地にここから上って行け。

33:2 わたしはあなたがたの前にひとりの使いを遣わし、わたしが、カナン人、エモリ人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を追い払い、

33:3 乳と蜜の流れる地にあなたがたを行かせよう。わたしは、あなたがたのうちにある上らないからである。あなたがたはうなじのこわい民であるから、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼすようなことがあるといけないから。」

33:4 民はこの悪い知らせを聞いて悲しみ痛み、だれひとり、その飾り物を身に着ける者はいなかった。

33:5 主はモーセに、仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたは、うなじのこわい民だ。一時でもあなたがたのうちにある上って行こうものなら、わたしはあなたがたを絶ち滅ぼしてしまうだろう。今、あなたがたの飾り物を身から取りはずしなさい。そうすれば、わたしはあなたがたをどうするかを考えよう。」

33:6 それで、イスラエル人はホレブの山以来、その飾り物を取りはずしていた。

33:7 モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れた所に張り、そしてこれを会見の天幕と呼んでいた。だれでも主に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのであった。



33:8 モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、おのおの自分の天幕の入口に立って、モーセが天幕にはいるまで、彼を見守った。

33:9 モーセが天幕にはいると、雲の柱が降りて来て、天幕の入口に立った。主はモーセと語られた。

33:10 民は、みな、天幕の入口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入口で伏し拝んだ。

33:11 主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

イスラエルの偶像礼拝のゆえに神様と一緒にには行かないと言われました。偶像の一番の重大さは、そこに主がおられなくなるということです。もしも主がイスラエルと一緒におられたなら、「あなたがたはうなじのこわい民であるから、わたしが途中であなたがたを絶ち滅ぼすようなことがあるといけないから。」とまで、主は言われるのです。

そこでイスラエルはこの重大さに気づきました。主がおられないということは、守りも勝利もないということです。祝福も喜びもないのです。私たちは主の臨在を求めましょう。そして神以外のものを神のように優先させたり従ったりするような、心の偶像を避けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 金曜

出エジプト



33:12 さて、モーセは主に申し上げた。「ご覧ください。あなたは私に、『この民を連れて上れ。』と仰せになります。しかし、だれを私といっしょに遣わすかを知らせてくださいませんか。しかも、あなたご自身で、『わたしは、あなたを名ざして選び出した。あなたは特にわたしの心にかなっている。』と仰せになりました。」

33:13 今、もしも、私があなのお心にかなっているのですしたら、どうか、あなたの道を教えてください。そうすれば、私はあなたを知ることができ、あなたのお心にかなうようになれるでしょう。この国民があなとの民であることをお心に留めてください。」

33:14 すると主は仰せられた。「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。」

33:15 それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。」

33:16 私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによるのではないのでしょうか。」

33:17 主はモーセに仰せられた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから。」

33:18 すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」

33:19 主は仰せられた。「わたし自身、わたしのあらゆる善をあなたの前に通らせ、主の名で、あなたの前に宣言しよう。わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」

33:20 また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることはできないからである。」

33:21 また主は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上を立て。」

33:22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。

33:23 わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない。」

モーセは不安でした。そのために彼が求めたのはモノや力ではなく、主がともにいてくださることです。目に見えるもので安心して、それは消え去るものです。それが有効なのは今の状況においてだけなのです。何よりも主がいてくださることを求めましょう。主ご自身が解決です。主を求めましょう。主とともに歩むことを第一としましょう。

モーセはしつこいほどに神様を求め、「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。」とまで言います。私たちがときには神様なしでも、勝手に好きな方向に進んでしまうことがあるかも知れません。そのような態度とは大きな違いです。主が共にいてくださることを、しつこいほどに求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 土曜

出エジプト



34:1 主はモーセに仰せられた。「前と同じような二枚の石の板を、切り取れ。わたしは、あなたが砕いたこの前の石の板にあったあのことばを、その石の板の上に書きしるそう。

34:2 朝までに準備をし、朝シナイ山に登って、その山の頂でわたしの前に立て。

34:3 だれも、あなたといっしょに登ってはならない。また、だれも、山のどこにも姿を見せてはならない。また、羊や牛であっても、その山のふもとで草を食べていてはならない。」

34:4 そこで、モーセは前と同じような二枚の石の板を切り取り、翌朝早く、主が命じられたとおりに、二枚の石の板を手を持って、シナイ山に登った。

34:5 主は雲の中であって降りて来られ、彼とともにそこに立って、主の名によって宣言された。

34:6 主は彼の前を通り過ぎるとき、宣言された。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神、怒るのにおそく、恵みとまことに富み、

34:7 恵みを千代も保ち、咎とそむきと罪を赦す者、罰すべき者は必ず罰して報いる者。父の咎は子に、子の子に、三代に、四代に。」

34:8 モーセは急いで地にひざまずき、伏し拝んで、

34:9 お願いした。「ああ、主よ。もし私があるあなたのお心にならなっているのですしたら、どうか主が私たちの中において、進んでくださいますように。確かに、この民は、うなじのこわい民ですが、どうか私たちの咎と罪を赦し、私たちをご自身のものとしてくださいますよ

うに。」。

イスラエルの偶像礼拝によって砕かれた石の板でしたが、主はもう一度それを書きしるしてくださいました。私たちの不信仰による失敗にも、主は憐れみ、チャンスを与えてくださいます。

ただし、主はあなどられるような方ではなく、この世のものを近づかせないほどに聖であられます。主のあわれみを軽く見る者には後がないのだと思うことも必要です。

主が赦してくださる方であるからこそ、その尊い愛の前にひれ伏しましょう。愛の主であるからこそ、その聖なる方に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



34:10 主は仰せられた。「今ここで、わたしは契約を結ぼう。わたしは、あなたの民すべての前で、地のどこにおいても、また、どの国々のうちにおいても、かつてなされたことのない奇しいことを行なおう。あなたとともにいるこの民はみな、主のわざを見るであろう。わたしがあなたとともに行なうことは恐るべきものである。

34:11 わたしがきょう、あなたに命じることを、守れ。見よ。わたしはエモリ人、カナン人、ヘテ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人を、あなたの前から追い払う。

34:12 あなたは、注意して、あなたがはいつて行くその地の住民と契約を結ばないようにせよ。それがあなたの間で、わなとならないように。

34:13 いや、あなたがたは彼らの祭壇を取りこわし、彼らの石柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒さなければならない。

34:14 あなたはほかの神を拜んではならないからである。その名がねたみである主は、ねたむ神であるから。

34:15 あなたはその地の住民と契約を結んではならない。彼らは神々を慕って、みだらなことをし、自分たちの神々にいけにえをささげ、あなたを招くと、あなたはそのいけにえを食べるようになる。

34:16 あなたがその娘たちをあなたの息子たちにめとるなら、その娘たちが自分たちの神々を慕ってみだらなことをし、あなたの息子たちに、彼らの神々を慕わせてみだらなことをさせるようになる。

34:17 あなたは、自分のために鑄物の神々

を造ってはならない。

34:18 あなたは、種を入れないパンの祭りを守らなければならない。わたしが命じたように、アビブの月の定められた時に、七日間、種を入れないパンを食べなければならない。あなたがアビブの月にエジプトを出たからである。

34:19 最初に生まれるものは、すべて、わたしのものである。あなたの家畜はみな、初子の雄は、牛も羊もそうである。

34:20 ただし、ろばの初子は羊で贖わなければならない。もし、贖わないなら、その首を折らなければならない。あなたの息子のうち、初子はみな、贖わなければならない。だれも、何も持たずに、わたしの前には出なければならない。

34:21 あなたは六日間は働き、七日日には休まなければならない。耕作の時も、刈り入れの時にも、休まなければならない。

34:22 小麦の刈り入れの初穂のために七週の祭りを、年の変わり目に収穫祭を、行なわなければならない。

34:23 年に三度、男子はみな、イスラエルの神、主、主の前に出なければならない。

34:24 わたしがあなたの前から、異邦の民を追い出し、あなたの国境を広げるので、あなたが年に三度、あなたの神、主の前に出るために上る間にあなたの地を欲しがる者はだれもいないであろう。

34:25 わたしのいけにえの血を、種を入れたパンに添えて、ささげてはならない。また、過越の祭りのいけにえを朝まで残しておいてはならない。

34:26 あなたの土地から取れる初穂の最上のものを、あなたの神、主の家に持って来な

ければならない。子やぎをその母の乳で煮てはならない。」

ここで強調されているのは、主だけを神とすること、救いを大切にする、安息日を守ることです。この信仰の姿勢は今も変わらずに求められることです。

「今ここで、わたしは契約を結ぼう。」とあります。主の救いはまさに契約です。しかし人は旧約の契約には従えなかったのです。そこでイエス様の十字架があります。ただ十字架の契約で救われるのです。すなわちただ信じるだけで救われるということです。

ここにある契約は、イエス様がそれを全うしてくださったということです。それを今一度感謝しましょう。そして感謝の思いのゆえに、主だけを神とすること、救いを大切にする、安息日を守ることを実行しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

